

～ 自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること ～

『バトン』をつなぐ

令和2年度八女地区中学校総合体育大会が開催されました。西中の部活動の関係では、7月26日に陸上、8月1日に軟式野球・サッカー・バスケットボール(男女)・バレーボール(女子)・卓球(男女)が出場しました。

新型コロナウイルス感染症の問題があり、開催の可否もふくめたところで検討がなされました。断腸の思いで生徒の参加学年・参加人数や観覧の制限をするなどして感染症拡大防止対策を講じて、可能な限りでの大会開催となりました。厳しい状況の中で、何とかして八女地区大会を開催し、部活動がんばってきた中学生のみなさんにこれまでの成果を発揮できる場をつくりたいという多くの関係者の思いで実現しました。出場した部活動において、3年生にとっては最後の公式試合となりました。勝敗によらず、どの部においても自分たちの持てる力を十分に発揮しようとプレイし、いい試合であったという報告を受けています。

今大会に出場した部の3年生は、入部してから今回の八女地区大会まで、日々の練習を積み重ね、時には泣いたり、時には笑ったり、時には怒ったり、時には大喜びしながら、仲間と共に切磋琢磨し続け、引退の日を迎えたと同時に大きな役割を果たしたことになります。それは、部が脈々と存続するための『バトン』を引き継ぎ、各部の伝統ある歴史の1ページを飾り、1・2年生に部の『バトン』をつないだということです。これは、各部の3年生の自信となり、誇りとなります。中学校での部活動は価値ある教育活動の1つではありますが、部の存在はあたりまえのようであまりまえではありません。現在、西中学校にある部活動は、多くの卒業生(先輩方)が部の『バトン』をつなぎ、今の部員が受け継いで存続しているのです。そして、これは部活動だけでなく、西中学校全体でも同じことが言えます。今後の西中3年生の活躍を期待しています。

部の『バトン』を引き継いだ各部の1・2年生のみなさんは、各部の3年生から学んだことを活かし、“いい部(いいチーム)”をつくってほしいと願っています。その要素をいくつか挙げると、「気持ちよく、あいさつができる」「元気がいい」「マナーを大切にする」「ノーサイドの精神がある」「(部員だからこそ)学校生活をきちんと送る」「部活動だけでなく、何でもがんばる(逃げない・あきらめない)」「自分も仲間も大切にする」などがあり、周囲の人々が応援したくなる部(チーム)です。



夏休みにトライしてみませんか

今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としての学校休業措置の関係で、短縮されたものとなりました。12日間の夏休みですが、この期間に安全に留意しながら、いろいろなことにトライしてほしいと思います。いくつか例を挙げてみます。

【例1】夏休みの課題を自分が立てた計画よりも1日早く終わらせる

→まず、夏休みの課題に取り組む計画を立てます。20日には提出しますので、遅くとも19日にはすべての課題が終わるよう計画を立てます。「それぞれの課題(プリントなど)をするのに自分はどれぐらいの時間がかかるのか」「いつ(何日の何時に)課題をするのか」など、見通しをもって実行できる計画を立てないとうまくいきません。そして、そのようにして立てた計画をもとに実行していきますが、計画よりも1日早く終わらせるようがんばってみます。自分の可能性をさらに伸ばすこととなります。

【例2】自ら家庭生活での役割を果たしてみる

→家庭で何かお手伝いをしている人が多いと思いますが、今年の夏休みに自宅で自分ができる家事や片づけなどを自ら家族に宣言し、実行してみます。実行する上で方法がわからないことは、お家の方に教えてもらってやってみましょう。「実行する前の自分」より「実行した後の自分」は成長しています。

【例3】①身のまわりの「変化」に気づいたり、②身のまわりの「なぜ」を見つけたりしてみる

→①は、例えば、植物や動物などの生き物、雲や空などがあります。昨日も今日も同じようではありません。毎日、よ〜く見ていると「変化」に気づきます。②は、例えば、コンセントの穴の大きさ。身のまわりを見わたすと、たくさんの「なぜ」があります。①も②も自分にとっての大発見になります。

(文責 木村彰男)

